

令和3年度 第6回 吹田市政策会議概要

日 時：令和3年（2021年）11月4日（木）午後2時10分～午後2時50分
場 所：吹田市役所 高層棟4階 特別会議室
出席者：後藤市長、春藤副市長、辰谷副市長、小西総務部長、今峰行政経営部長、
北澤児童部長、大山福祉部長
所 管：【健康医療部（健康まちづくり室）】
岡健康医療審議監、梅森部長、宮崎室長、山本参事、渡辺主査

案 件	地方独立行政法人市立吹田市民病院第3期中期目標の策定について
担当及び関連部局	健康医療部（健康まちづくり室）
【案件概要】 地方独立行政法人市立吹田市民病院の第2期中期目標（平成30年度（2018年度）～令和3年度（2021年度））が今年度末で終了することから、第3期中期目標（令和4年度（2022年度）～令和7年度（2025年度））を策定しようとするもの。	
【所管部の考え方】 第2期中期目標（以下「第2期」という。）期間が今年度末に終了することに伴い、地方独立行政法人市立吹田市民病院（以下「法人」という。）に対し、更なる経営改善を図りつつ、中・長期的な医療需要を見据え、公立病院として果たすべき役割を示すことを目的に、第3期中期目標（以下「第3期」という。）を策定する。	
【質疑概要】 質問： 第2期への追記、削除部分など、第3期の特徴的な部分を教えてほしい。 回答： 総合病院としての役割に変わりはないので、全体のベースは第2期と同様である。第3期の大きなテーマとして、在宅医療の必要性が高まると予測される令和7年（2025年）、令和17年（2035年）に向けて、公立病院としての役割を発揮できるように準備を進めておくことを掲げている。また、新型コロナウイルス感染症の影響を踏まえて、新興感染症等の感染拡大に備えた準備を平時から行っておくことや、有事の際には公立病院として中心的な役割を果たすことを新たに追記した。更に、難病指定医療機関であることから、難病に関する医療についても追記した。大きく削除した部分はない。 質問： 病院の移転、感染症の拡大があった中での、第2期の達成度を教えてほしい。現在どこまで達成できているかを示した上で、その結果を踏まえて、第3期を策定していることを示してはどうか。 回答： 第2期の見込み評価を行っているところであり、概ね計画通り進んでいると評価している。一方で、緊急医療などの、第1期からの継続的な課題については改善したとまでは言えないものもある。また、令和2年度、令和3年度は、感染症拡大の影響で達成できていない目標があるが、できる限りの努力がなされたと評価している。	

質問： 「人材の確保・養成」の項目で、第2期にはなかった「安定した病院運営にも資するよう、専門性の高い職員の人材確保・養成に努めること」が追加で記載されているが、どういうことを想定しているのか。

回答： 医療職以外にも、能力のある人材を積極的に登用すること、具体的には経営戦略、運営に優れた人材の確保、養成を想定している。

質問： パブリックコメントのうち、「障がいがある方への医療提供及び配慮に関する意見・要望」の内容は。

回答： 障がい者が安心して受診、入院できる環境を整えることを求める意見、意思表示することが難しい障がい者の訴えたいことをきちんと受け止められる体制を作ってほしい、という要望が大半を占めていた。障がいの有無にかかわらず、誰に対しても必要な医療を提供することは、病院としての大前提であるため、中期目標に反映はしていない。

意見： 聴覚障がい者が受診される際には、市から手話通訳者を派遣しているが、緊急時には対応できないこともある。法人には、障がい者も健常者と同様に受診ができる体制づくりを意識してもらいたい。

意見： 地方独立行政法人として経営改善を進めて経営基盤を築いてほしいという声と、公立病院として果たすべき役割を重視する声がある。相容れないことを求められている法人は、難しい立場に置かれているが、地方独立行政法人として、それぞれを両立していくということを全面に出してほしい。

意見： 「業務運営の改善及び効率化に関する事項」について、働きやすい環境の整備のためには、数値目標が必要だと思う。

【結果】

本件は承認された。会議で出た意見を踏まえて取組を進めること。